

国立病院機構千葉医療センター

年間分娩件数 216件 うち帝王切開53件

年間婦人科手術数 337件(開腹手術200件、腹腔鏡手術47件、腔式手術71件)

指導責任医師 岡嶋祐子

日本産科婦人科学会専門医5名

日本産科婦人科学会指導医2名

日本婦人科腫瘍専門医1名

日本婦人科腫瘍指導医1名

日本女性ヘルスケア暫定指導医1名

がん治療認定医1名

がん治療暫定指導医1名

母体保護法指定医2名

病院の特徴

地域がん診療拠点病院、千葉県災害拠点病院、地域医療支援病院の指定を受けた全診療科常勤医の揃った総合病院であり、幅広い患者受け入れが可能である。産婦人科の患者として治療が必要な場合でも、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病代謝内科、腎臓内科、精神科、外科、整形外科など他科の疾患を合併していることも多く、逆に、婦人科腫瘍の患者であっても脳転移、肺転移、骨転移などの場合は脳外科、呼吸器外科、整形外科、放射線科、麻酔科、緩和ケア科で直接の治療が必要となる。一つの病院内でこのような広範囲の患者スペクトルに対応できることが本病院での研修の特徴の一つである。また、特に外陰部外傷や外陰腫瘍では必要に応じて、外科や形成外科との共同手術も実施している。全身麻酔で挿管する場合は全例、術前歯口科受診し、診察や口腔内クリーニングをルーチンとしており、手術リスクの低減を図っている。一昨年より病院敷地内に性暴力被害者支援ワンストップセンターを擁し、婦人科として必要な被害者支援が滞りなくできる態勢を整えつつある。

研修の特徴

産婦人科専攻医として学ぶべき4つのサブスペシャリティのうち体外受精による不妊治療以外は研修項目を満たすことができる。千葉市産婦人科休日二次救急や夜間二次救急にも対応しており、婦人科救急も実践可能である。悪性腫瘍手術を執刀する前に良性腫瘍の手術を会得することは必須の事項であるが、良性疾患の開腹手術や腹腔鏡手術、腔式手術は豊富に経験できる。次いで希望があれば、本人の実力に応じて悪性疾患の執刀や助手も可能であるが、これらはすべて専攻医研修中でも、がん治療認定医の申請基準を満たす一助となる。緩和ケア講習は院内の常勤医全員が受講していることが求められ、このため毎年院内で緩和ケア講習が日本緩和医療学会より委託されて実施されている。女性ヘルスケアに分類される、骨盤臓器脱や尿失禁などに対する骨盤底手術件数が多く、TVM手術（過去8年間で300件以上）や尿失禁手術（過去10年間で30件以上）は連携病院中最多である。